

# 経緯



年月日	対応
H17.12	平成17年度第2回因但県境自治体サミット ・新温泉町及び香美町からジオパーク構想の調査研究を提起
H19. 6. 4	山陰海岸ジオパーク構想推進協議会設立準備会発足
H19. 7. 16	山陰海岸ジオパーク推進協議会 ・会長 中貝豊岡市長、幹事長 馬場新温泉町長 ・学術顧問(当初4人→6人) ・事務局 新温泉町企画課
(H20.5.23)	日本ジオパーク委員会設立(ジオパーク審査・認定・推薦機関)
(H20.10.20)	世界ジオパークネットワーク国内候補地に3地域が選定 ①洞爺湖有珠山、②糸魚川、③島原半島
H20.12.8	第4回日本ジオパーク委員会において、7地域が日本ジオパークに決定 ①洞爺湖有珠山、②糸魚川、③島原半島、④アポイ岳、⑤南アルプス(中央構造線)、⑥山陰海岸、⑦室戸
H21.1.5	山陰海岸ジオパーク推進協議会の体制強化 ①3府県知事が顧問に就任し、市町をバックアップ ②広域的な連携及び取り組み強化のため、事務局を但馬県民局が担当(事務局長:県民局長(→H22.2~県民局参事)) ③日本ジオパーク委員会からの指摘事項の改善を図るため専門部会(学術部会)を設置 ④岩槻邦男人と自然の博物館長が相談役に就任

9

年月日	対応
H21.6.18	世界ジオパークネットワーク国内候補地申請(山陰海岸ジオパーク基本計画策定)
(H21.8.22)	洞爺湖有珠山、糸魚川、島原半島の3地域が世界ジオパークネットワーク加盟認定
H21.10.28	第6回日本ジオパーク委員会において、世界ジオパークネットワーク国内候補地に選定
H22.8.1~4	世界ジオパークネットワーク委員による現地審査
H22.10.4	世界ジオパークネットワーク加盟認定
H23.2.12	世界ジオパークネットワーク加盟認定記念国際シンポジウム ギリシャ・レスボス島ジオパークとの姉妹提携締結
H24.5.11	APGNコーディネーターミーティング(総会)により、第4回アジア太平洋ジオパークネットワークシンポジウムの山陰海岸ジオパークでの開催決定
H25.5.10	推進協議会総会で鳥取市西部エリアまで拡大することを決定
H25.12.16	日本ジオパークに再認定(鳥取市西部エリアを含めて)
H26 夏頃(予定)	世界ジオパークネットワーク審査
H27.9(予定)	第4回APGN山陰海岸シンポジウムの開催

10

年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
推進体制 (事務局)	事務局 新温泉町 1人	H21.1.5 新温泉町 2人→ 但馬県民 局に移転 5人(兵庫 県3、 府県市町 からの派 遣1、専 門員1)	11人 (兵庫県1、 兼務2、 府県市町 からの派 遣3、 ガイド2、 研究員1、 専門員2)	11人 (兵庫県2、 兼務1、 府県市町 からの派 遣3、 ガイド2 研究員1、 専門員2)	12人 (兵庫県3、 府県市町 からの派 遣4、 ガイド2 研究員1、 専門員2)	11人 (兵庫県3、 府県市町 からの派 遣4、 ガイド2 研究員1、 専門員1)	12人 (兵庫県3、 府県市町 からの派 遣6、 ガイド2 研究員1)
予算規模	約100万 円	約1,400万 円	約1,400万 円	 年間3,000万円規模 (構成府県市町からの負担金)			

## (1) 山陰海岸ジオパーク推進協議会の設立 (H19. 7. 16)

① 目的

山陰海岸がユーラシア大陸から分離し、日本列島が誕生したダイナミクスが確認できる貴重な海岸であると捉え、学術的に研究し、ともに学び、広くその存在を知らしめることを目的とする。また、地質学的、生態学的環境の資源価値を継続して高めていくとともに、これらを教育的活動やジオツーリズムの場として高度利用できる環境整備をおこなうなど、地域一体となった地域活性化のための活動をおこなう。  
(推進協議会規約より)

## ② 体制

- ・会長：豊岡市長、副会長：鳥取市長、幹事長：新温泉町長
- ・事務局：新温泉町企画課
- ・顧問(学術支援アドバイザー)：波田神戸女子大学教授他5名

## ③ 予算

- ・H19年度 1,151千円  
(素材調査委託、啓発パンフ作成等)
- ・H20年度 4,520千円→補正(10,337千円)  
(基本計画の策定、案内パンフ作成、フォーラムの開催、ボランティアガイド養成講座の実施等)(補正：サイン整備計画の策定、啓発活動、ジオサイトの指定とジオガイドブック、ジオサイトマップの作成等)

13

## (2) 世界ジオパーク候補地落選 (平成20年10月)

### ○ 日本ジオパーク委員会からの改善指摘

- ① 価値ある多数の地形・地質遺産をジオツーリズムに活かすための準備が整っていない(ジオサイトを時代別、テーマ別に整理し、ストーリーを練り、それに沿って見学ルートを設定することが必要)。
- ② 説明看板の設置、ガイドマップやガイドブックの作成を行う必要がある。
- ③ 拠点となる施設の展示を充実する必要がある。
- ④ 科学者のネットワーク、科学者と協力して地元でガイドマップなどの作成やジオツアーのガイド活動に関わる人のネットワークを構築する必要がある。
- ⑤ ジオツアーの実績を積む必要がある。

14

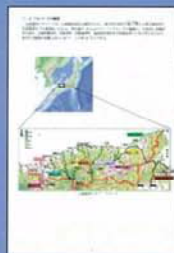
### (3) 推進体制の強化 (平成21年1月)

- ① 3府県知事の顧問への就任
  - ・顧問として市町をバックアップ
- ② 人と自然の博物館館長の相談役への就任
- ③ 専門部会の設置
  - ・三田村大阪大学准教授を部会長とする専門部会の設置、各府県に分会を設置
- ④ 事務局の変更
  - ・より広域的な連携及び取り組みを強化するため、兵庫県但馬県民局が事務局を担当
  - ・事務局長を設置し、兵庫県但馬県民局長が就任
- ⑤ 補正予算
  - ・地元機運の醸成やPR強化を図るため、ラッピングバスの整備運行にかかる予算を兵庫県から受託 (平成20年度 10,337千円→13,794千円)

15

### (4) 世界ジオパーク加盟

平成22年10月4日



申請書  
(H21.6.18)



選定の連絡を受ける中貝会長(豊岡市長)

16